

相手が緩和しているため、相対してLMEアルミ相場は下向きだ。ただ、世界の生産のうち約4割を中国の生産コストはトン0.06台とみられることが、LMEの下値は限定的。1日に突っ込む場面があっても持続性はなさそうだ。

最大の焦点はもうかるか。仮に2000ポンドの高値としても、現状のリタ約100ポンドと少ない。今も多くのリターンはそうになく、投資効率はアルミ価格の下支え要因株の上昇が一服したり、属の中心である銅が動意ければ、アルミは動きに

スド
マッファ
トフ・ジャー
アチマ
江守哲氏

アルミ

1800—2200ドル、在庫も重しに



工業部部長
金属部部長
軽金属部部長
友友管理
秋山拓也氏

2013年度上期のロンドン金属取引所（LME）アルミ3カ月先物はトン1800—2200ポンドを予想する。世界のアルミ需給を見ると、中国や豪州などのアルミ製錬所の稼働は維持されている。国や地方政府、電力会社がサポートしているためだ。中東やマレーシアでの増産も寄与し、全体での供給量は増える見通しだ。これに対し、需要は底堅いものの供給増を上回るほどの勢いはなく、上期に急増することはないだろう。供給バランス上は過剰となる可能性が高い。

一方で生産コストから考えても下値が1800ポンドを割り込み、一層下落することは考えづらいのではないかと。供給過剰であることを踏まえると、上値についても極端な上昇の可能性は低いと見る。LMEのアルミ地金在庫が520万ポンド（2月末時点）と、過去最高水準で推移していることも、上値を重くしている要因の一つとなっている。

アルミ

割増金高水準、生産コスト下支え



銅・アルミ製鋼所
事業部門原料部長
久保和広氏

2013年度上期のLMEアルミ相場は、12年度下期と同水準のトン1800—2000ポンドを予想する。足元で割増金（プレミアム）が高水準となっており、加えて雇用問題の観点から政府・電力会社が支援しているため、生産者サイドがアルミ地金を減産することは考えづらい。需要も米国やアジアを中心に堅調に拡大するだろうが、13年度は供給過剰が続くとみる。

中国需要や欧州債務問題といった不安要素の克服には、まだ時間がかかるため、相場の上昇余地は限られるだろう。代替エネルギーへの期待感から原油価格が低迷し、商品市況全体への資金流入の足かせとなっていることも見逃せない。

一方で下値水準も限定的と予測する。高水準のプレミアムにサポートされているが、1900ポンドを切るレベルでは製錬所の採算が厳しくなる。また原材料であるボーキサイトやアルミナの確保の重要性も高まっており、今後の相場下支えの要因となる可能性もある。

アルミ

景気回復実体化で2200ドル突破も



岡村金属社長
岡村晋吾氏

上期のLMEアルミ相場は、トン1850—2300ポンドを予想する。欧州不安がくすぶっているだけに相場予測が難しい時期だが、日米など各国が景気対策として金融緩和に力を入れている中、インフレが進みやすいことはプラス材料。原油価格が高止まりしていることも、アルミ価格の上昇要因となる。

アルミ相場は、年初からの上昇志向が続いている。特に、米国が実施した量的緩和第3弾（QE3）、日本では金融緩和の強化方針であるアベノミクスなどで、景気回復に対する期待感が膨らんでいる。欧州もドイツの景気が悪くない。景気の回復期待に実体の数字が伴ってくれば、アルミは2200ポンドを突破するだろう。

相場が下に向かう材料は、欧州の債務不安。欧州で問題が浮上すれば、株式市場で利食いが入るとともに、アルミも売られるだろう。ただ、生産コストである1900ポンドを下回る価格での推移が続けば、生産調整が進むとみられる。アルミの下値は限定的だ。

アルミ

好材料重複で2300ドル乗せ可能



橋本アルミ取締役
橋本健一郎氏

2013年上期のアルミ相場は、期末に向けて上昇する。足元はイタリアの政局不安やキプロス問題といった欧州懸念をはじめ、LMEアルミが在庫増を受けてトン1900ポンド割れに下落するといった場面も見られたが、それ以外はマイナス材料をこなしている。欧州問題は今後とも折衝出るとみられるが、長期的には織り込み済みの様相で、数週間もあれば封じ込めは可能とみる。LME在庫の増加についてもLME倉庫ファイナンスディールの結果であり、現物タイトは、プレミアムの上昇をみれば明らか。

むしろアベノミクスによる公共事業増や震災復興の拡大、「財政の崖」問題解決後の米経済の動向、中国の習近平体制による内需を中心とした景気対策など、プラス材料に注目している。これらを考えれば実需増加は間違いない、日米中での好材料が重なれば2300ポンド乗せも可能。

一方、下値は欧州問題のチャート分析から、一時的に1900ポンド近辺まで下落するのは避けられない。

移転

住友電業は、本社を近鉄四日市駅前に移転し、5月6日から業務を開始すると発表しました。現社は四日市製作所に名称変更する。

【新本社】

▽住所 三重県四日市市浜田町5-28
▽電話 059-330059
54-6200
▽FAX 059-354-6318

購読の申し込み

日刊産業新聞 販売部
0120-300039
申し込みフォーム
<http://www.japanmetal.com/koukoku.html>

収益底上げ策として、朝霞工場の押出事業で受託加工を増やすことにも注力する。同